

四日市港管理組合議会ニュース

Yokkaichi Port Authority Assembly

第78号(令和6年10月発行)

令和6年は、7、8月に第2回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

芳野正英議員



・自由で安全な船舶の利用について
主な質問項目

- 四日市港に係留しているプレジャーボート等は、船体の老朽化に伴い、安全性や環境機能が低下している。現在、許可を受けているプレジャーボートの船舶更新（入替）が認められていないと聞いているが、今後どのように考えているのか。
- 現在、四日市港での放置艇対策は、国が策定した基本方針に基づき、「四日市港放置艇対策協議会」で策定した運用方針で進めている。この運用方針では、これまで四日市港に係留されていない新規のプレジャーボートの係留は認めておらず、許可を得て係留しているプレジャーボートの更新（入替）についても新規とみなし、認めていない。まずは放置艇を早く減らしたいという目的で取り組みをすすめてきた。
- 既存許可艇の更新も新規として規制するのは、放置艇除去の目的とは結び付かない。この運用を見直すつもりはあるか。
- これまでの運用方針に基づき取り組んで、数年経過し、放置艇は確実に減った。一方で許可艇の老朽化により、船体やエンジンの不調から、更新（入替）許可についてのご要望もある。このような状況を踏まえ、既存許可艇の沈船化や新たな放置艇発生を防止するためにも、現在認めていない更新（入替）について具体的な許可条件等を整理し、運用方針案を作成して、秋口までに「四日市港放置艇対策協議会」を開催し審議いただき、今年度中に許可できるように取組を進めたい。
- 船の所有者にとっても更新計画があるので、対応を早急に進めていただきたい。

笹井絹予議員



・港湾活動における環境への影響について
(漁獲量の減少・ヒアリ対策)
主な質問項目

- 四日市港をはじめとする伊勢湾の海洋環境について漁獲高が減少していると聞いているが、要因として考えられるものについて聞きたい。
- 伊勢湾の状況について、三重県の資料によると漁獲量が減少傾向にある。特にコウナゴについては、平成28年から令和6年漁期もコウナゴ漁の解禁が見合せとなっている。三重県水産研究所の報告ではコウナゴの減少要因として海水温上昇や伊勢湾の貧栄養化による影響の可能性が示唆されている。海水温の上昇は、気象庁の報告によるとこの100年で日本近海の海面水温は全海域平均で1.28°C上昇し、三重県近海の四国、東海沖で1.34°C上昇している。また、伊勢湾の貧栄養化については、三重県の資料によると伊勢湾で窒素とリンが評価され始めた平成8年と比べて減少傾向にあり、これらの影響から漁業に影響を及ぼすと考えられている。
- 四日市港でのヒアリ対策について、現状と取組について聞きたい。
- 全国的にヒアリ類への対策強化が進む中、四日市港では管理組合と港湾関係者が連携し、自主的に生息状況調査等を続けてきたところ、環境省から取組が評価され、ヒアリ類対策のモデル港湾として指定を受けた。令和6年3月に、関係者による連絡会議において四日市港におけるコンテナ物流の現場の特性に即した「四日市港ヒアリ類対策マニュアル」を取りまとめた。今後とも、ヒアリ類の防除に向けて、引き続き関係者との連携のもと、水際対策に取り組んでいく。
- ヒアリは攻撃性もある。これからもいろいろなものが入ってくるかもしれないが、しっかりと対策を講じていただきたい。